

担 当 者 各 位

警 視 庁 外 事 第 一 課 長

経済安全保障及びサイバー攻撃対策に関するセミナー開催について
みだしのことについては、アカデミア関係者をお招きしたセミナーを下記のとおり開催
いたしますので、御参加いただきますようお願い申し上げます。

記

1 目的

国際情勢の複雑化、A I・量子技術等の革新的技術の出現、宇宙・サイバー等の安全保障における新たな領域の誕生等、我が国を取り巻く近時の経済安全保障情勢を踏まえて、アカデミア関係者をお招きして、最新の事例や対策等を御紹介するとともに参加者同士の情報交換及び危機意識の共有を図り、学産官が一体となって技術情報の流出を防止するための対策を推進するため。

2 開催日時

令和7年12月4日（木）午後1時30分から午後4時45分までの間
（受付開始 午後0時30分から）

3 開催場所

東京都府中市朝日町3-15-1 警視庁警察学校
最寄り駅：京王線 飛田給駅（北口）徒歩17分
西武多摩川線 多磨駅（東口）徒歩15分

4 参加者

アカデミア（大学、研究機関等）関係者

5 プログラム（別添1「アカデミアセミナータイムスケジュール」のとおり）

- 基調講演①（警視庁）・・・・・・・・・・・・・・・・・・約20分
- 基調講演②（調整中）・・・・・・・・・・・・・・・・・・約20分
- 学産官各分野の有識者によるパネルディスカッション・・・・約60分
- コーヒーブレイク・・・・・・・・・・・・・・・・・・約30分
- グループディスカッション・・・・・・・・・・・・・・・・・・約60分

6 その他

- 申込人数に制限はございませんが、会場の収容人数の関係で、参加人数の調整をお願いする場合がございますので、あらかじめ御了承ください。
- 駐車場はありませんので、お越しになる場合は公共交通機関を御利用ください。

- グループディスカッションのグループ分けのため、下記の表から、参加を希望するグループの番号を第3希望までご記載ください。
- ディスカッションテーマ毎の検討事例（エキスパート・ベーシック共通）は、別添3の「グループディスカッションテーマ」をご覧ください。

※グループを選定するにあたり、「現在の担当部署における実務年数」を目安とさせていただきます。

※グループディスカッションでは、議論には参加せずオブザーバーとして聴講することや、有識者によるパネルディスカッション終了後にご退出することも可能です。

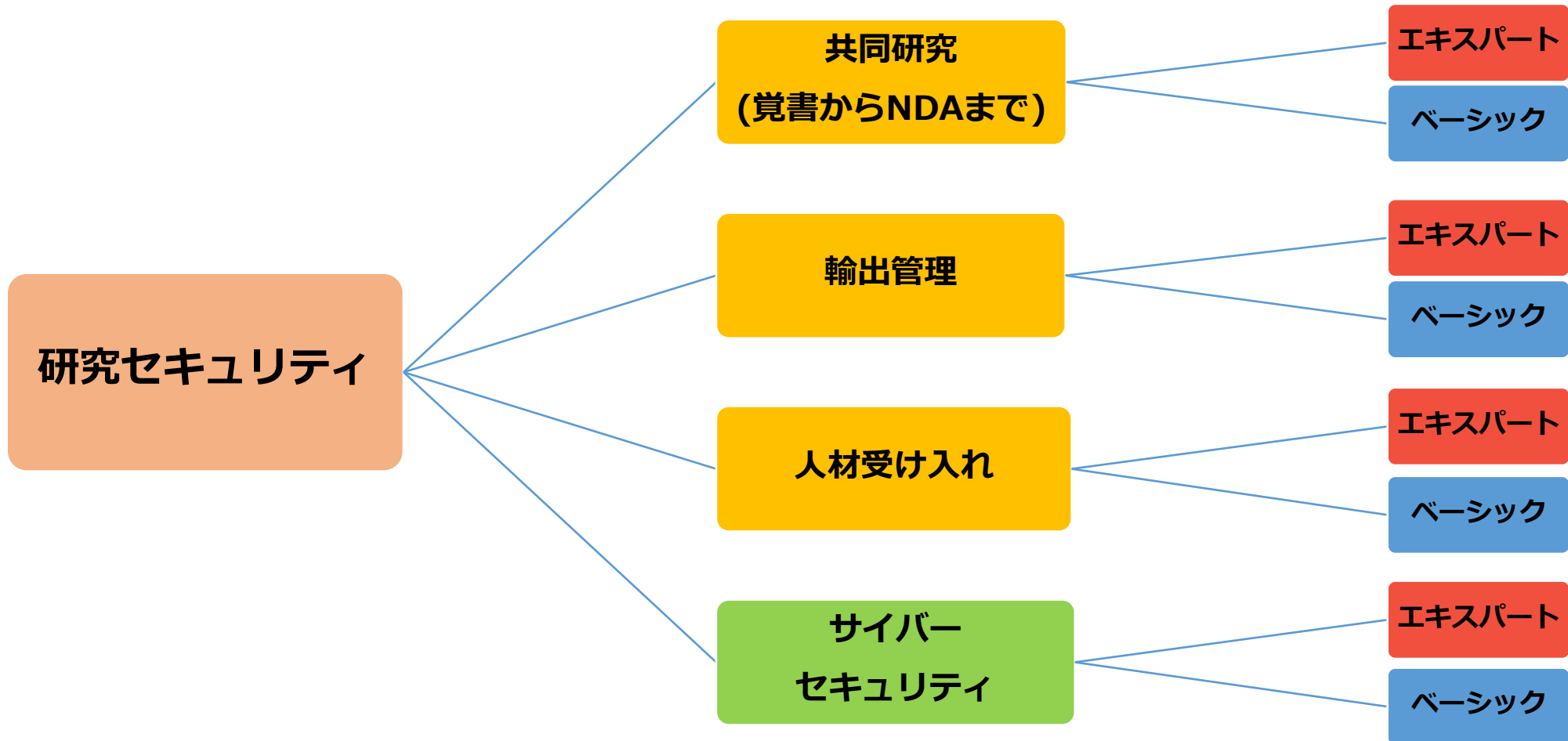
※収容人数の関係で、ご希望のテーマにご参加いただけない場合や、別のプログラムへご案内する場合がございますので、ご了承ください。

ディスカッションテーマ	グループ	番号
共同研究 (覚書・NDA、研究成果物の帰属など)	エキスパート	①
	ベーシック	②
輸出管理	エキスパート	③
	ベーシック	④
人材受け入れ	エキスパート	⑤
	ベーシック	⑥
サイバーセキュリティ	エキスパート	⑦
	ベーシック	⑧

- 会費無料
- 参加申込期限 令和7年10月31日（金）

12月4日（木）アカデミアセミナータイムスケジュール

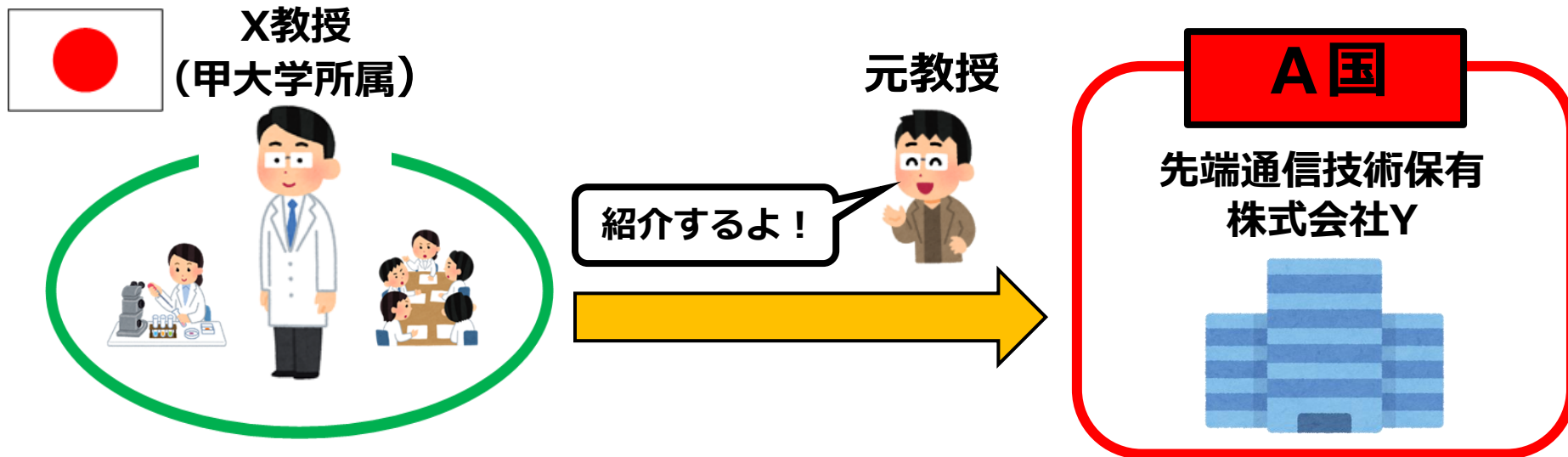
時 間	内 容	備 考
会場：警察学校大講堂（東京都府中市朝日町3-1）		
12:30 ~	受付開始	
13:30 ~ 13:45	基調講演（主催者挨拶） 主催者（警視庁）	
13:45 ~ 14:10	基調講演 ※ 調整中（海外有識者による講演を予定）	
14:15 ~ 15:15	パネルディスカッション 「アカデミアにおける研究インテグリティ（セキュリティ）の現状と課題（仮）」 モデレーター：東京大学先端技術研究センター 特任講師 井形彬氏 登壇者：【アカデミア担当者】 筑波大学 利益相反・輸出管理マネジメント室 准教授 山越祥子氏 【経済産業省担当者】 経済産業省 知的財産政策室 室長補佐 黒川直毅氏 【民間企業担当者】 ※ 調整中	
コーヒープレイク		
15:30 ~ 16:30	グループディスカッション ※ 事前に複数のテーマを告知、希望するグループ（10G程度）に分かれて実施	各グループ毎に 指定会場へ移動
~ 16:45	閉会	



- 4つのテーマを設定し、各テーマに「エキスパート」、「ベーシック」グループを設置。
- 参加者の実務年数等に応じてグループ分けすることで、各々の専門レベルに応じた討議ができる環境とする。（全8グループ）

テーマ【共同研究】～想定事例～

- 甲大学で情報通信分野の研究をしているX教授は、先日大学を退官した元教授からの紹介で、本社がA国に所在する株式会社Yを紹介された。
- 株式会社Yは、先端通信技術を保有する企業であり、低価格・高品質と評判の電子機器製品を提供している。
- 株式会社Yの担当者からは、「当社と直接の共同研究が難しければ、別の企業を間に挟めば承諾してもらえるか」と質問されたため、大学の輸出管理担当者に相談することとした。

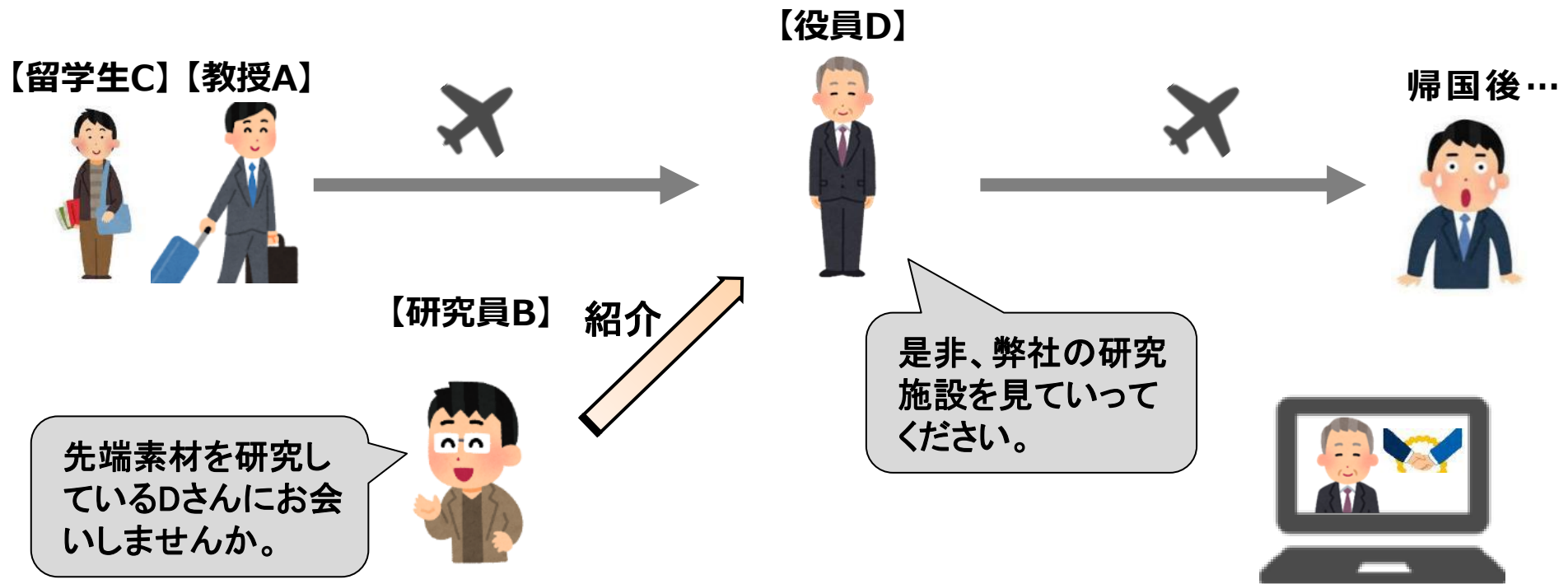


【論点】

- ① Y株式会社と協力することのメリット・デメリット
- ② 共同研究を行うとして、秘密保持契約（NDA）や研究成果物の権利等に関してどのように対処すべきか。
- ③ 自己の組織で同様のケースがあったか。どのように対処しているか。
- ④ サイバーセキュリティの観点から気をつけていることはあるか。

テーマ【輸出管理】～想定事例～

- 先端素材メーカーの顧問を務めている教授Aが、旧知の仲である他国の研究機関に所属している研究員Bから誘われ、留学生Cとともに、同国の国際学会に参加した。
- 学会において、Bから同国で同じ分野の先端素材を研究開発している企業の役員Dを紹介され、同企業の研究施設を見学した後、意見交換をして、帰国した。
- 帰国後、同国のメディアでDが懸念企業との資本提携の締結について発表していることが判明した。

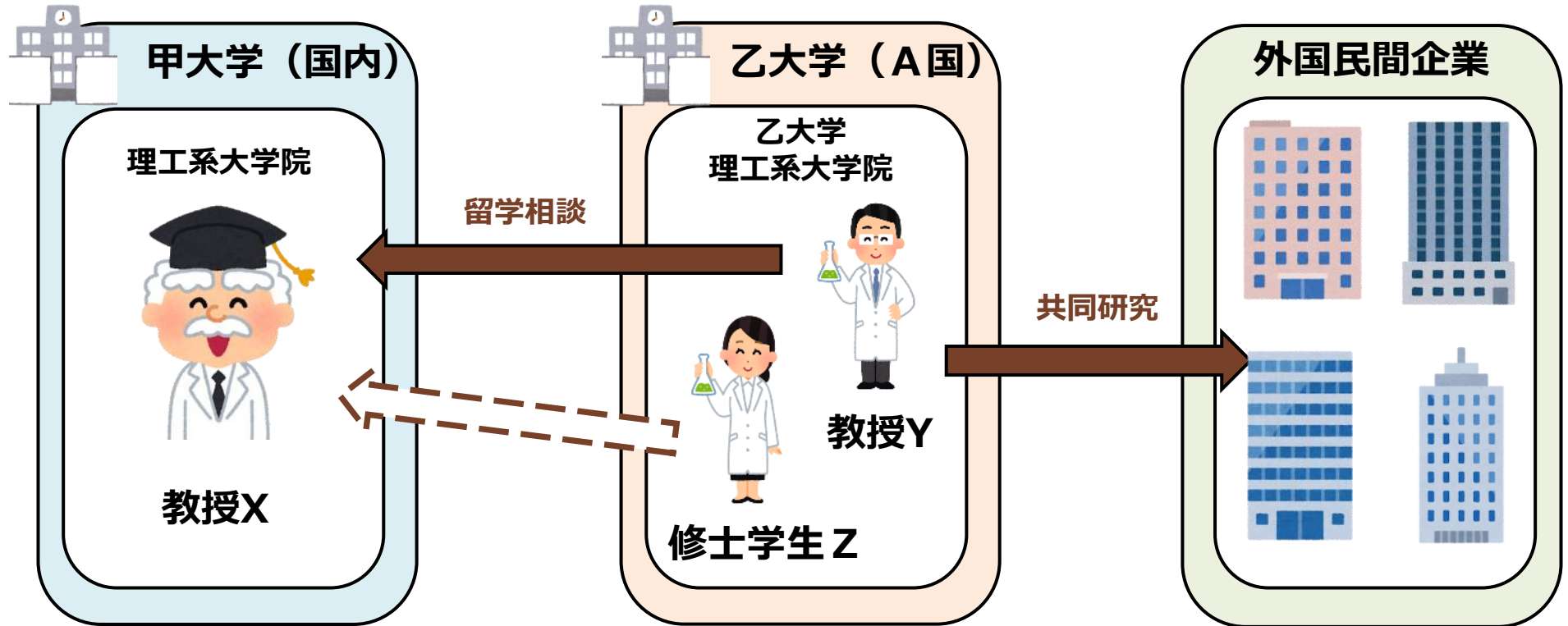


【論点】

- ① 海外渡航時の携行品・同行者について
- ② 研究成果物が軍事転用されることの安全保障上の懸念・レピュテーションリスクについて
- ③ その他に検討したいこと（生成A I・サイバーセキュリティなど）

テーマ【人材受入】～想定事例～

- 甲大学（国内）の教授Xは、乙大学（A国）の理工学系大学院に所属する教授Yから、教え子である修士課程学生Zの、甲大学理工系大学院への留学について相談を受けた。
- 教授Yは、甲大学で博士の学位を取得後、A国に帰国し、乙大学の教授に就任していた。
- 教授Yと修士課程学生Zは、乙大学にて、複数の外国の民間企業と共同研究を実施していた。



【論点】

- ① 学内⇒関係制度の遵守、共同研究内容、研究者に求められる対応
- ② 学外⇒レピュテーションリスク、安全保障上の懸念
- ③ その他に検討したいこと（生成A I・サイバーセキュリティなど）

テーマ【サイバーセキュリティ】

～各大学等において講じているサイバーセキュリティ対策～

【ディスカッションの背景と目的】

＜背景＞

大学におけるサイバーセキュリティの確保は、情報セキュリティ部門と教授等先生方との考え方の違いなどにより、**サイバーセキュリティ確保に係る取組において各々困っている事項**があると考えられる。

＜目的＞

困っている事項を共有するとともに、困っている事項に係る対策の検討や、対策に係る好事例を共有することで、各々の大学のサイバーセキュリティの確保に役立てる。

特に、**大学におけるセキュリティポリシーや、連携して研究する際のアクセス制御等**について上述を検討するもの。

【キーワード】

サプライチェーンリスク
サイバーエスピオナージ



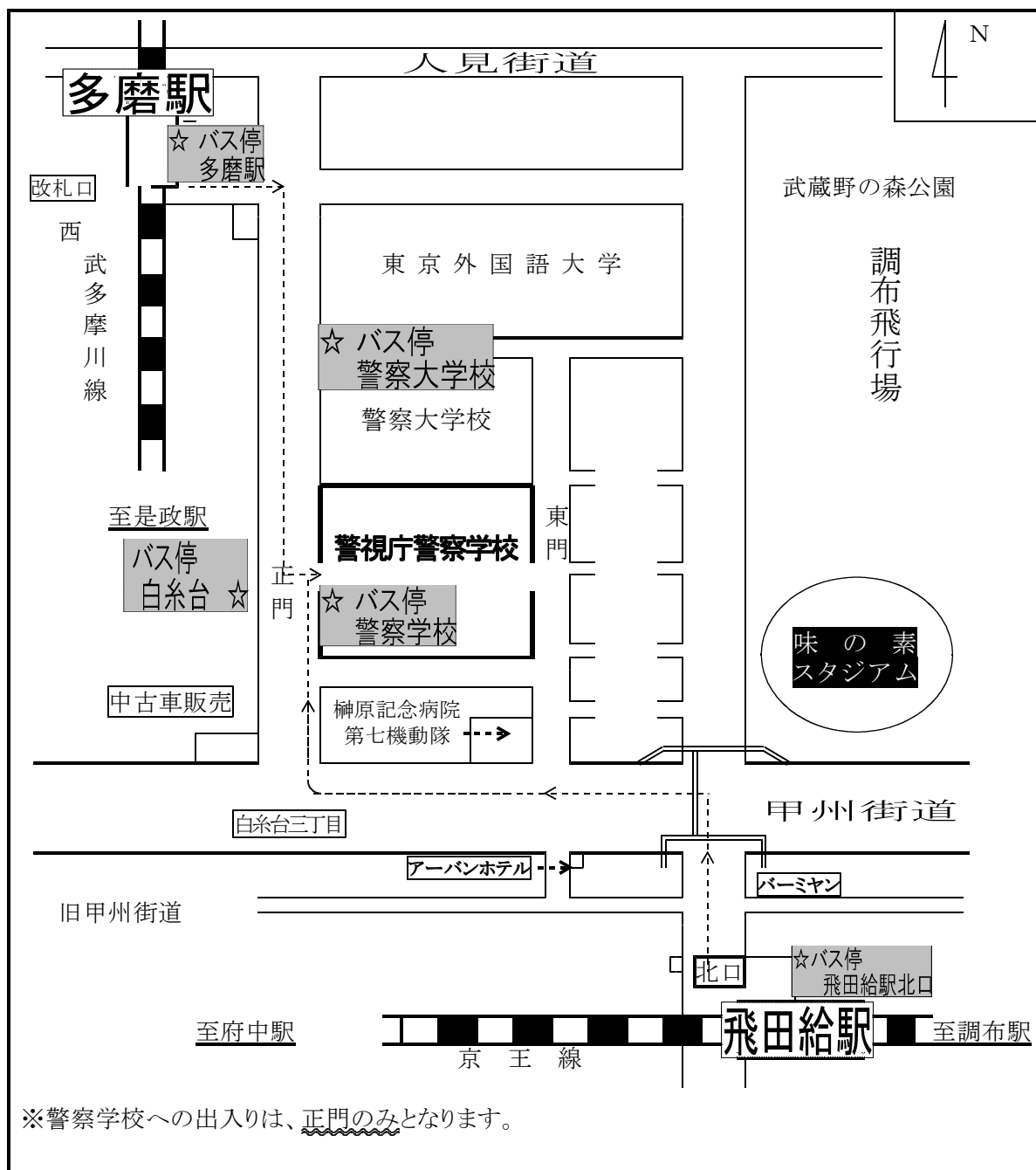
マイクロセグメンテーション
適切なアカウント管理・アクセス権の付与

【ディスカッション項目】

- 1 セキュリティポリシーやアクセス制御等について
 - (1) 困った・困っている事項
 - (2) 大変なところ・苦労した（している）事項
- 2 実際の取組状況
 - (1) 大変なところ・苦労した（している）事項
 - (2) できなかった（できていない）部分や課題
 - (3) 好事例

我が国の研究が対日有害活動に利用されないようにするためにどのようなセキュリティ対策を取るべきか

警視庁警察学校 案内図



【警視庁警察学校】
〒183-8585 府中市朝日町3-15-1

【交通機関】

- * 京王線「飛田給駅」から約1.3km(徒歩約17分又はバス約5分)
バス停「飛田給駅北口」から京王バス「多磨駅行」に乗車し、バス停「白糸台」にて下車
- * 西武多摩川線「多磨駅」から約1.1km(徒歩約15分又はバス約5分)
バス停「多磨駅」から京王バス「飛田給駅行又は調布駅行」に乗車し、バス停「警察学校」にて下車